

小学校給食 給食調理業務の民間委託開始わずか3日後に 異物(ビニール片)混入、一カ月以上も公表せず 党市議団が教育委員会に緊急申し入れ (5月27日)

4月から給食調理の民間委託が始まった市立大清水小学校で、異物混入事件が起きたことが分かりました。日本共産党市議団は27日、事件のすみやかな公表と検証委員会の設置、再発防止策の確立などを市教育委員会に申し入れました。

事件は委託開始からわずか3日後の4月14日に発生。豆腐パックのビニール片(2mm×7cm)が一人の児童のおかずに入ったというもの。児童が口にすることなく、直後に学校が当該児童の保護者に謝罪したとのことですが、市民には一切伝えられていません。関係議員(新旧の教育子ども委員)に伝えられたのは一か月以上たった、今月の25日でした。

申し入れで、さし議員は「民間委託に対して多くの保護者が不安を抱くなかで起きたことは重大。少なくともただちに公表すべきだった」と述べ、教育委員会の対応を厳しく批判しました。

応じた金田慎也・学校教育部長は「民間委託を始めた学校での異物混入ということの認識が甘かった。



名古屋市教育委員会の金田学校教育部長(右端)に申し入れる、(左から)岡田、青木、山口、さし、高橋各議員=27日市役所

反省し、おわびしたい。委託業者にただちに再発防止を指導したが、検証委員会を出来るだけ早く立ち上げ、あらゆる手段を講じたい」と述べました。

山口議員は「情報公開は学校長の判断に任せるのではなく、教育委員会が責任をもつべき。情報の共有と公開基準を確立すべきだ」と求めました。

2016年5月27日

名古屋市教育長 杉崎正美 様

日本共産党名古屋市議員団 団長 田口一登

大清水小学校における給食への異物混入事件に関する申し入れ

本市では今年4月から大清水(緑区)、西山(名東区)、荒子(中川区)の各小学校で給食調理業務の民間委託が始まりました。大清水小学校では4月14日に、一人の児童のおかずの中から2mm×7cmの豆腐パックのビニール片が見つかる事件が発生しました。

民間委託については、計画発表直後から多くの保護者・市民が食の安全に対する強い不安の声を上げ、議会に対して、中止を求める請願書と2万9千筆余の署名が提出されるなど、反対の世論が大きく広がりました。

それだけに委託開始わずか3日後に、異物混入事件が起きたことは重大です。

しかも、本事件については当該児童と保護者には学校から口頭で謝罪が行なわれただけで、市民には一切知らされず、事件直後の19日に開かれた市会教育子ども委員会においても、委員に対してまったく報告がありませんでした。

安心安全な給食を求める保護者、市民にとっては看過できない大問題です。

これまで貴委員会は、「委託業者や調理スタッフが入り替わっても、十分に引き継ぎを行い、安心安全な給食を安定的に実施できる」と説明してきましたが、事件発生を防ぐことができませんでした。

そこで、以下の3点を申し入れます。

記

1. 今回の異物混入事件について、ただちに公表するとともに、検証委員会と各学校の給食運営委員会をすみやかに立ち上げ、異物混入の原因を明らかにし、再発防止策を確立すること。保護者説明会もすみやかに開くこと。
2. 今回の異物混入はもちろんのこと、今後、異物混入が発生した場合は、教育委員会の責任において、当該校の保護者をはじめ市民に対し、すみやかに公表すること。
3. 学校給食調理業務の民間委託をこれ以上広げず、実施3校を直営に戻すこと。